

卒業生に贈る言葉

校庭の梅の花も満開を迎え、日を追うごとに春の訪れを感じる季節となりました。今年度の卒業式も新型コロナウイルス感染症拡大対策として、残念ながら卒業生・教職員・保護者のみの参加となりましたが、お忙しい中お越しいただきました、保護者の皆様と共に、第四十八回卒業証書授与式がこの様に挙行できる事、嬉しく感じております。

第四十八期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

ただ今巣立っていく三年生、百四十七名一人ひとりに卒業証書を授与いたしました。保護者の皆様におかれましても、日々慈しみ愛情を注いでこられたお子様の卒業に、言葉では言い表せない感動を胸に抱いておられることと推察いたします。

三年前の入学式で、希望と不安が入り混じり、緊張した面持ちで体育館に入場してきた皆さんに、『元気な挨拶が出来る人になってください。』『自分の思いをきちんと相手に伝え、相手の思いをしっかりと受け止められる人になってください。』『創造的な活動に積極的にチャレンジする三年間にしてください。』と話したことが、今でも昨日のように思い出されます。皆さんと共に過ごした三年間は、『平成』から『令和』に時代が変わり、社会情勢も大きく変化しました。

三年間を振り返ると、一年生の時の「体育祭」は入学後間もない6月実施でした。真夏のような暑さの中で、学年種目「台風の日」等競技と演技に頑張っていました。「学習発表会」での学年合唱「COSMOS」は皆さんの澄み渡った歌声が体育館に響き、聞くものが清々しい気持ちになりました。三月からは新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら長期に渡る全国一斉臨時休校となってしまい、「さあこれから様々な中学校生活が送れる。」と思っていた矢先の出来事でした。二年生になっても、緊急事態宣言の発出や、感染拡大防止対策で行事の変更・中止が相次ぎました。「学習発表会」や「校外学習」「職業体験学習」も中止せざるを得ない状況でした。

三年生になっても、状況は変わらず、クラブ関係でも大会や発表会が軒並み中止となり、日頃の練習の成果を発揮する場が殆どない部活動生活となってしまいました。私も皆さんの頑張っている姿があまり見られず心残りです。その中でも、「修学旅行」と「体育祭」は実施できました。「修学旅行」は一旦延期となり、また、様々な規制がかかった中での実施でしたが、自然の中で思いっきり童心に帰って楽しんでる姿や、ようやく仲間との繋がりが実感できた喜びに浸っている様子が印象的でした。「体育祭」では、プログラム最後の「古中ソーラン」を、2年生の前で披露し、団結力・躍動感等、四十八期生の底力が伝わってきました。また、『創立五十周年記念式典』では、『生徒会長挨拶』『古中ソーラン』『新制服体操披露』と三年生が中心に盛り上げてくれたおかげで、古中らしい記念式典が出来たと感謝しています。この様に限られた行事でしたが、皆さんの弾けるような笑顔が、今でも瞼に浮かび上がります。学習面も、三月に入ってからでも、最後まで全員が落ち着いて学習に集中していました。当たり前のことを当然のようになっている姿を見て「質の高い集団」に育ってくれたと強く感じました。

この様に話は尽きませんが、皆さんにお話していただけるのも、名残惜しいですが今日が最後です。この最後の機会に、私が常日頃心がけている言葉を送りたいと思います。

それは、江戸時代後期の米沢藩主上杉鷹山の「なせば成る なさねば成らぬ



何事も成らぬは人のなさぬなりけり」という言葉です。意味は、「どんなことでも強い意志を持ってやれば必ず成就する」というもので、上杉鷹山が借金まみれで、今でいう倒産寸前の米沢藩の財政を立て直すため、苦労を重ねた上に遺した言葉です。が、単に「強い意志を持って努力しなさい。出来ないのは努力が足りないからだ。」というだけではないと私は考えています。この「成る」を最終ゴールと考え、ゴールに到達するために必要な事は何でしょうか。勿論「努力」する事は必要ですが、「先を見る力」「コミュニケーション力」「分析する力」「計画性」等、多角的にゴールに迫る視点が必要だと考えます。そして、何か壁にぶつかった時に大切なのが「レジリエンスカ」(しなやかさ)です。挫折そうな時は、誰かに相談し、前を向き難局を乗り越えてください。皆さんの周りには支えてくれる「親」「兄弟」「友達」「先輩」そして「先生方」もいます。困ったときに周りを頼めることは、決して恥ずかしい事ではありません。これから、周りの人との「コミュニケーション」そして「感謝」の気持ちを大切にしていってください。

今後皆さんは、正解のない間に正対しながら生きてゆくことになります。今回の新型コロナウイルス感染症も、分かってきたこともありましたが、その時々で最適解を模索しながらの日々はまだ当分続くと思われまます。また、皆さんが調べ学習で取り組んだSDGsの目標十六「平和と公正をすべての人に」の達成が、まだまだ世界的に難しい出来事が起きています。皆さんも知ってのとおり、ウクライナ市街地がロシア軍から攻撃されている様子、子供を含む多くの民間人の犠牲、母国から逃れ難民となっている様子の報道が連日流れ、状況は刻々と緊張度を増しています。この事から、「命の大切さ」と、「どのような事態が起ころうとも、暴力による解決はしてはいけない」ということを強く感じると共に、一刻も早い戦闘状態の終結を皆さんと共に祈念しています。

この様に言うと同途多難感が強くなるのですが、皆さんはこの古江台中学校で「人とつながる力」を学び、実践してきました。また、皆さんには「無限の可能性と創造力」があります。時代の変わり目だからこそ、自分の可能性を信じ、「レジリエンスカ」「コミュニケーション力」「感謝」をキーワードに、計画性を持って『為せば成る』の精神で大きく羽ばたいていってくださることを願っています。万一迷いや、困ったことがあればこの古江台中学校を訪れて、皆さんが仲間とともに過ごした日々を思い出してください。きっと解決に向けてのヒントがあるはずです。

さて、保護者の皆様、お子さまのご卒業、本当におめでとうございます。至らぬ点多々あったかと思いますが、三年の担任・学年教員をはじめ教職員一同、精一杯努力して参りました。特にこの二年間は社会全体が「感染拡大防止対策」として我慢を強いる形になり、生徒たちにとってもストレスの連続だったと思います。しかしながら、子どもたちはよくルールを守って、頑張ってくれました。この間、保護者の皆様からいただきました、本校教育活動に対するご理解・ご協力に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さあ、巣立っていく皆さん！皆さん一人一人が人生の主人公です。無限の可能性へ大きく第一歩を踏み出してください。皆さんの限らない成長と今後の活躍を願って、私の贈る言葉といたします。



令和四年三月十一日

吹田市立古江台中学校

校長 森田 直樹